

一 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。

I

資本主義と民主主義が組み合わされた今日の世界に於いて、「カッコいい」は、依然として巨大な力を有している。

その政治的プロパガンダの威力は決して衰えず、期待もされている。二〇一九年に、自民党が「新時代の幕開け」と題して、安倍晋三首相らを、凡そ実物とは似ても似つかない、「カッコいい」侍風の姿で描いた広告を展開したことなどは、①そのわかりやすい例だろう。手がけたのは、画家／キャラクターデザイナーの天野喜孝だった。

また、ハリウッドや中国のエンターテインメント映画が、ワイヤーアクションやブルーバックのCGに象徴されるような「カッコよさ」をひたすら追求しているのは周知の通りである。

昨今では、経産省が音頭を取っている「クールジャパン」^{*1} 然り、日本文化の「カッコよさ」は、日本人自身によって過剰なまでに意識されている。

確かに戦後、日本は、黒澤明の映画『七人の侍』や川久保玲のコム・デ・ギャルソン、『ドラゴンボール』から『キャプテン翼』、『ワンピース』に至るまでの漫画やアニメ、ソニーのウォークマンや日産GT-R、日本料理、K-1やPRIDEのような格闘技興行、空手や柔道、忍術などの格闘技、……と、数々の「カッコいい」文化を輸出してきた。

それが可能となったのは、明治以来、欧米の文化を追い続けてきて、戦後は取り分け、大西洋を跨いで形成されていた世界的な「カッコいい」ブームに巻き込まれながら、そのセンスを吸収したからである。日本はつまり、「カッコいい」という言葉を通じて、六〇年代以降のトレンドのグローバル・スタンダードをフォローし、分野によつてはしばしばリードすることが出来たのだった。無論、日本発の「カッコいい」文化には、南部鉄器のような伝統的なものもあるが、カラリングや、どういう店で販売するかなど、その見せ方には、②「カッコよさ」の意識が今日、不可欠である。

ヒップの歴史について、ジョン・リーランドは、アメリカ建国以来の中心と周縁の物語をダイナミックに描出したが、更に視野を拡大するならば、それはイギリスを呑み込み、極東の敗戦国日本にまで及んで、グローバルな規模でその運動を展開した、と見ることもできよう。日本はその間、まさにマージナルな場所から世界規模の「カッコいい」運動に

参加し続けてきたのである。

また、日本にきた外国人が、独自に伝統文化や建築、あるいは思いもかけない場所や店を「クール」と評価することもあった。それとて、日本人が独力ではなし得なかったことである。

II

しかし、タワー・オヴ・パワーの《What is Hip?》の歌詞にもあったように、今日、「カッコいい」とされているものは、明日にはもう、「カッコ悪く」なっているかもしれない。

政府が日本のコンテンツ輸出を支援することは必要だろうが、新しい価値をクリエイトしていく人を地道に応援するのではなく、もう何年も前に「カッコいい」とされたものを後追いで持ち上げてみても、必ずしも支持はされまい。

「カッコいい」は、常に現状に対する個々人の反抗であり、そもそも政府が出張って、「クールジャパン」などと夜郎自大に謳^{うた}って応援していること自体が、端から見ればどうしようもなく「カッコ悪い」。日本ではなく、中国やアメリカがそんなことをやっているとを想像してみれば、簡単にわかる話である。

六〇年代以降、日本人が「カッコいい」と「しびれて」きた海外の文化は、ロックにせよ、ヒップホップにせよ、いずれもメディアを通じた「カッコいい」の世界的ネットワークの中から自力で生まれてきたものだった。③支援するのであれば、政府は飽くまで黒子に徹し、一切、存在感を消して行うべきだろう。

ネットの登場以来、コンテンツ産業は、^{*4}インタラククションに注目し、一方的な鑑賞ではなく、「体験」をこそ重視してきた。

他方で、すべては文脈次第であり、物の消費よりも、「物語」の消費こそが重要だとも語られてきた。

(A)、「カッコいい」とは何かを歴史を辿^{たど}りつつ見てきた私たちには、これが些^{ちか}かソフト・フォーカスの議論に見えるだろう。

(B)、「体験」だけでは不十分であり、その核には必ず「体感」がなければならない。散々、色々なことを「体験」させられながら、まったく④肌^④が立つ」ような瞬間がなければ、単に退屈で疲れるだけだし、不満が残

る。

(C)、幾ら「物語」がお膳立てされていても、「体感」が実質として備わっていないなければ、つきあうだけ面倒である。

「しびれる」ような生理的興奮がある「体験」が、それを的確に「カッコいい」に結びつける「物語」に内包されている時、私たちは十分な満足を感じる。コンテンツの企画会議でも、その「体験」と「物語」のどこに「体感」があるのか、といったより焦点化した議論がなされるだろう。

「体験」と「物語」の重要性とは、「体感」を中心とした「経験する自己」と「物語る自己」との最適化に他ならないのである。

III

エンターテインメントは、今後ますます正確に、人間の生理的興奮をターゲットとしてあらゆる創意工夫を行い、それを遺漏なくコンテンツへの支持へと繋げる言葉の誘導を強化していくだろう。ファン・コミュニティの重視というのも、その一つである。

私は、必ずしもそれを手放しで理想化し、推奨するわけではないが、現実的にはそう予想せざるを得ない。例えば、⑤VRがリアルな体験として人を虜にしようにするならば、これが徹底されなければ不可能である。そして、VR空間の方が圧倒的に「④肌が立つ」機会が多くなれば、現実の価値は、相対的に低下するかもしれない。

「カッコいい」人物についてリサーチしていて、私は一つ気がついたことがある。

私は何度となくマイルス・デイヴィスやボードレールなどの言葉を引用したが、「カッコいい」とされる人々の必須の条件は、「カッコいい」名言を残している、ということである。

どれほど優れたスポーツ選手であっても、言葉を持っていない人は決して「カッコいい」存在としてカリスマ化されない。なぜなら、その当人の言葉による補助線がなければ、パフォーマンズを見て「しびれた」体験も、うまく「カッコいい」と意味づけることが出来ないからである。また、共感が芽生えにくく、その人物なり商品を、理想的な憧れの

対象として良いかどうか、判断できないからである。

勿論、メディアがその役割を代替することもあるが、本人の言葉に勝るものはない。

ミュージシャンは、今日ではマスメディアだけでなく、SNSを通じても常に言葉を発し続けているし、自伝の類いも驚くほど刊行している。⑥どんなに音楽が「カッコよく」ても、コメントが「カッコ悪い」人は、ガツカリされるだろう。もし、モハメド・アリがただ強いだけで、言葉を持っていなかったならば、決して今ほど「カッコいい」存在にはなっていなかったはずである。

(平野啓一郎『「カッコいい」とは何か』講談社現代新書)

《注》

*1 クールジャパン・・・経済産業省によると、「コンテンツ・ファッション・デザイン・観光サービスなどを中心に海外で人気の高い商材を国内外に発信」する政策。

*2 マージナル・・・周辺のな。取るに足りない。

*3 夜郎自大やろうじだい・・・自分たちの力をひけらかして、いばること。

*4 インタラクション・・・相互作用。ここでは双方向・対話型の作品や娯楽のこと。

問一 空欄AとCに入る言葉として適当なものを次の記号からそれぞれ一つ選びなさい。

ア また イ しかし ウ さて エ つまり オ たとえば

問二 傍線部①「そのわかりやすい例」とあるが、どのような例のことか。三十字以内で説明しなさい。

問三 傍線部②『カッコよさ』とあるが、その「カッコよさ」を表した例として適当なものを次の記号から一つ選びなさい。

ア 石川県の輪島塗のような伝統工芸品ならではの渋さを持った食器。

イ 日本企業が考案したスーパーマリオのような欧米人をモチーフにしたキャラクター。

ウ ハワイ発のアロハシャツのようなクールビズで認められた服装。

エ 東京都にある渋谷のようなトレンドをリードする土地に出された店舗。

問四 傍線部③「支援するのであれば、政府は飽くまで黒子に徹し、一切、存在感を消して行うべきだろう」とあるが、それはなぜか。その理由を五十字以内で説明しなさい。

問五 ④にある漢字を入れると慣用句が完成する。その漢字を一字で答えなさい。

問六 傍線部⑤「VRがリアルな体験として人を虜にしようとする」とあるが、そのためには人にどのような感覚を与える必要があるのか。その答えとして適切な語句を本文中から十四字で抜き出しなさい。

問七 傍線部⑥「どんなに音楽が『カッコよく』ても、コメントが『カッコ悪い』人は、ガッカリされるだろう」とあるが、それはなぜか。その理由として適当なものを次の記号から一つ選びなさい。

ア ミュージシャンの発言によって、一度は心に響いた歌詞の持つ意味が理解できなくなってしまうから。

イ ミュージシャンが出した自伝の存在のせいで、音楽だけを純粋に楽しむことが困難になってしまうから。

ウ パフォーマンスをした本人がSNSで発信するせいで、音楽にまで政治的な意味合いが付加されてしまうから。

エ パフォーマンスをした本人の言葉によって、その人物に対して憧れていいものか迷いが生じてしまうから。

問八

I III には各意味段落の内容をよく表したタイトルが入る。そのタイトルとして適当なものを次の記号からそれぞれ一つ選びなさい。

I

- ア 広告の「新時代の幕開け」
- イ クールジャパンの世界的広がり
- ウ マージナルな場所から
- エ 外国人から見た日本の建築

II

- ア 後追いで応援することの罪深さ
- イ 対抗文化は「カッコ悪い」
- ウ “物語”をお膳立てする
- エ “体感”がなくてはならない

III

- ア 「カッコいい」人々は名言を残している
- イ ファン・コミュニティの重要性
- ウ カリスマは何を言ったのか
- エ マスメディアが持つ役割とは

□ 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。

聖光女子学園中等部二年生の立花カナは、学生寮で同部屋の三年生であるハミちゃんから厳格な指導を受ける生活に窮^{きゆう}屈^{くつ}さを感じていた。そんな中、かつてカナに化粧を教えてくれた恩があり憧れでもある三年生の泉田さんに退学処分が下された。ハミちゃんが泉田さんに特別な思いを抱いていることを知っていたカナは、ハミちゃんを強引に連れ出してタクシーに乗り、駅に向かった。

ホームにはまばらな人の姿があった。泉田さん家族を捜して歩きまわる。ハミちゃんの荒い呼吸が背中にぴったりついてくる。いない、いない、どうしよう。おばさん連れのグループや、手をつなぐ男女や、赤ん坊を抱いた女の目に目を走らせていると、

「カナちゃん、どうしたのー？」

泉田さんの、のんきな声が聞こえてきた。

ホームの真ん中に喫煙室があり、そのガラス戸を開けて泉田さんが手をふっていた。わたしはハミちゃんの手を引いて駆け寄った。

「あのっ、お別れを言いに来たの」わたしは言った。「ハミちゃんと、わたしとで」ハミちゃんは、わたしの隣でうつむいている。

「えー、寮抜け出してー？ 見つかったらたいへんだよー」

泉田さんは間延びした声で言い、笑い転げた。泉田さん、お願いだから今日だけはハミちゃんにうざいつて言わないで。さつき神さまに祈ったように、心のなかで泉田さんに祈る。

「手紙、ちょうだい」わたしは言った。なんて馬鹿みたいなことしか言えないんだろうと思いながら。そしてわきに立つハミちゃんを肘でつついた。もっと何か気のきいたことを言ってくれるように。

「泉田さんがいなくなるとさみしくなる」

ハミちゃんは顔を真っ赤にして、口のなかでもごもごと言った。

「わたしはさみしくなんかならないけどね」

泉田さんは笑顔で言った。ハミちゃんが泣いてしまうのではないかと盗み見ると、

「わたしはなるんです」

真っ赤な顔をまっすぐあげて生真面目な声でハミちゃんは言った。

喫煙室から、見知らぬおじさんとおばさんが出てくる。お見送りにきてくれたの、と泉田さんが言っているから、両親なのだろう。わたしの前に立つおじさんからは、苦重い煙草たばこのにおいがきつく漂った。

「まあまあ、わざわざどうもありがとうございます。この子がお世話になりました」

白いツーピースを着たおばさんが、わたしたちに向かって深く頭を下げる。なんだか照れくさくてわたしはうつむいた。

「お世話になったのはこちらなんです。それでどうしてもお礼が言いたくて、駆けつけてきたんです」

泉田さんには①としかしゃべれなくせに、大人と向き合うのが得意なハミちゃんは、稽古してきてみたいにりゅうちような挨拶をする。そして泉田さんに向かって、

「どうもありがとうございます」

大きな声で言って頭を下げた。②泉田さんはきょとんとしてわたしを見る。

三番線に上り電車がまいります。白線の内側までお下がりください。朗々とした男の声がアナウンスされる。おじさんとおばさんは喫煙室に戻り、荷物をまとめている。

「ハミちゃん、無断外出がばれたらたいへんなことになるよ。親が呼び出されてこっぴどく叱られて、下手したら停学かもね」泉田さんはハミちゃんに向かっておもしろそうに言った。「町で買い食いたりタクシー乗ったりして、そればれたら島流しまりゅうしかもよ。ハミちゃんの人生台無しだね」

電車の轟音ごうおんが近づいてくる。泉田さんの両親は喫煙室から出てきた。

「台無しになんかならない。台無しなんてことありえない」

ハミちゃんは決然と言った。泉田さんのことを言っているのだと、しばらくしてから気づいた。

「③島流しになったら東京おいで」

電車がすべりこんできて、両親が泉田さんの名前を呼ぶ。じゃあね、短く言って泉田さんはわたしたちに背を向けた。

電車のドアが開き、数人の乗客とともに泉田さん一家は乗りこんでいく。短く音楽が鳴り、ドアが閉まる。窓の向こうで泉田さんは舌を出し、ピースサインをしてみせた。泉田さんとピースサインが音をたてて流れていく。

「帰ろっか」

線路をのぞきこんでも電車は見えなくなり、静まりかえったホームでわたしは言った。ハミちゃんは無言でうなずく。

「寮の前でタクシー待っててもらって、部屋からお金持ってこようと思うんだけどさ、半分ハミちゃん出してよね」
階段を下りながらわたしは言った。

「どうしてわたしが出さなきゃいけないの？ 無理矢理連れてきたのは立花さんじゃないの。立花さんが出すべきだよ」

つんとすましてハミちゃんと言う。

「何それ！ ハミちゃんってどこまで嫌なやつなの」

思わずわたしは本音を漏らした。

「立花さん、上級生をあだ名で呼んじゃいけないって、ルールを決めたでしょう」
いつものハミちゃんに戻っていた。

「もう知らない。自動改札でつかまっちゃえ」

わたしは言い捨て、残りの階段を駆け下りて、広い構内を自動改札目指して走った。ちよっと、待ってよ！ ハミちゃんはどうもついてくるが、わたしはふりむかなかった。自動改札が出るサラリーマンをめざとく見つけ、しゃがんでぴたりとはりついて、いっしょに改札をくぐる。ひとりではそんな芸当のできないハミちゃんが、自動改札の前でおろとあたりを見まわしている。ああもう本当にどうしようもない。改札のこちら側でわたしは必死に指示を出し、ハミちゃんは女の人に続いてくぐりぬけようとしたものの、とろとろしているものだから、駅員に見つかってしまった。自動改札のわきにある小部屋から、怪訝な顔をして若い駅員が出てくる。

「早くっ、早くっば！」

閉ざされた扉の前でおろおろしているハミちゃんの腕を思いきりつかんで引きずり出した。

「ちよっと、きみたち」

駅員がどんどん近づいてくる。

「逃げろっ」

わたしはハミちゃんにささやいて、腕を強く握りしめたまま駆けだした。待ちなさい、きみたち！ 駅員の声が背後で聞こえる。無視して走り、タクシーを捜す。路肩に停まったさっきのタクシーはすぐに見つかった。ロータリーの薄闇に浮かび上がるタクシーの光を④我⑤中で目指し、助手席の窓ガラスをどんどん叩いた。

「おじさん、お待たせ！ 早く早く開けてっ」

後部座席のドアが開き、わたしはハミちゃんをまず押しこんで、転ぶような勢いで乗りこんだ。窓の外をちらりと見ると、すぐ近くまできた駅員がわたしたちに向かって何か叫んでいる。

「おじさん早く車出して！ 門限がすぎちゃう」

わたしにせかされ、運転手はアクセルを踏みこんだ。駅員と、別世界みたいな夜の町と、夜の町をうろつく人々がみるみるうちに遠ざかる。

膝においたわたしの手はちいさくふるえていた。きつとばれて叱られる。わたしはなんにも悪くないのに、先生と寮長にこつぴどく叱られ、理不尽な罰を受け、親にも再度失望される。でもそんなの、どうだっていいや。どんなお叱りも罰も失望も、わたしから、わたしとハミちゃんから、今日の記憶を取り去ることはできないんだから。ふるえる手を見下ろしてわたしは胸のなかでそうくりかえした。

「見つかったらどうしよう。さっきの駅員、きつと学校に連絡するに決まってる。立花さんのせいだ。立花さんのせいだからね。ああもう、ほんとどうしよう」

横に座るハミちゃんがぶつぶつぶやき、それを聞いていたらなんだか急にものすごくおかしくなった。何がどうおかしいのかよくわかってもないのに、げらげらと笑いがあふれ出た。

「ハミちゃんたら、ふるえてやんの。さっきの自動改札のハミちゃん、すんげーおかしかったよ、こんなへっぴり腰で」わたしは狭い後部座席で、⑥しているハミちゃんのまねをして笑い転げた。

「うるさいっ、ほんとのほんとに立花さんが悪いんだからね」

大嫌いなハミちゃんは言い続け、⑦わたしは涙を流して笑い続けた。泉田さんの乗った電車と、わたしたちの乗った

タクシーは、まったくの逆方向に向かっていているはずなのに、なぜだか、おんなじ場所を目指しておんなじ速度で走っている気が、なんとなく、した。

(角田光代『私はあなたの記憶のなかに』所収「神さまのタクシー」小学館文庫)

《注》

*1 島流し・・・明治時代初期まで行われた、罪人を島などに送る追放刑の一種。ここでは泉田さん自身が学校を追い出されることを踏まえ、ハミちゃんの規則違反を大げさに茶化するための冗談として使われている表現。

問一

①

・

⑥

に入る言葉として適当なものを、それぞれ本文中のそれより前の箇所から四字で抜き出さない。

問二 傍線部②「泉田さんはきょんとしてわたしを見る」とあるが、このときの泉田さんの気持ちを五十字以内で説明しなさい。

問三 傍線部③「島流しになったら東京においで」とあるが、泉田さんがこのように言ったのはなぜか。その理由を説明した文として適当なものを次の記号から一つ選びなさい。

- ア 愛称で呼ぶほど親しいカナとばかり話していたため、ハミちゃんにも声をかけておこうと思ったから。
- イ ハミちゃんの言葉をあまり真剣に取り合わなかったが、そのような態度を恥ずかしく思い反省したから。
- ウ 電車が到着したことで、最後ぐらいはハミちゃんが喜ぶ言葉をかけて場を取り繕おうと考えたから。
- エ はじめは軽くあしらっていたハミちゃんから、自分に対する本気の思いを感じるようになったから。

問四 ④・⑤にそれぞれ適当な漢字一字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

問五 傍線部⑦「わたしは涙を流して笑い続けた」とあるが、それはなぜか。その理由として適当なものを次の記号から一つ選びなさい。

ア 学校や寮の規則を破ったことで大人から叱られるのではないかと不安に感じる一方で、ハミちゃんや泉田さんと同じ気持ちを共有できたことで安心感を覚えたから。

イ 寮を抜け出して泉田さんに会いに来たこと自体は悪いと思っていない一方で、先輩であるハミちゃんに失礼な態度をとったことについては後ろめたく感じたから。

ウ 泉田さんとの思い出を振り返ったせいで別れの寂しさが込み上げていたが、ハミちゃんのふてくされる姿があまりにもおかしく愉快な気持ちにさせられたから。

エ 規則を破って外出している状況のせいで手がふるえるほどに緊張していたが、しだいに規則違反がもたらす爽快感のほうを強く感じるようになってきたから。

問六 本文で描かれる「ハミちゃん」の人物像を説明した文として適当でないものを次の記号から一つ選びなさい。

ア 基本的にルールに厳しく、後輩に対してはつきりとした言い方をする。

イ 口調が示すように冷たい性格であり、他者に対して関心を見せることがない。

ウ 大人との接し方に慣れており、丁寧な言葉づかいをすることができる。

エ 大人から怒られることを恐れており、自分の責任から逃れようとしてしまう。

問七

カエデ中学校で図書委員長を務めるミナミさんは、この小説「神さまのタクシー」を全校生徒に紹介したいと思
い、作品の特徴を文章にまとめた。左の文章中の傍線部ア～エのうち、適当でない説明を含むものを次の記号か
ら一つ選びなさい。

私がみなさんに紹介したいのは角田光代さんの「神さまのタクシー」という短編小説です。ア私たちはとも年代
が近い少女たちのやり取りを中心に描いた作品なので、きつと共感しやすいと思います。イ一人の少女の目線
から見た先輩や友人の姿がとてもリアルで、つつい私の親友と重ねてしまいます。ウ時折カギカッコを使わ
ずにセリフを表すことで物語に緊張感を与えているのが作者の巧みなところですね。エ急いでタクシーに乗り
込むシーンの「別世界みたいな夜の町」など比喩的な表現が繰り返し使われているのが、読者のイメージをふ
くらましてくれるので、物語の世界に引き込まれますよ。

三 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

武則たけのり、公相きんすけといふ隨身*1父子ありけり。右近うこんの馬場の賭弓*2、①わろく射たりとて、子を勘当*3して、晴はにて②打ちけるに、逃にぐることもなくて、打たれければ、見る人、「③いかに逃にげずして、かくは打たるるぞ」と問ひければ、「もし逃げ退はかば、衰老せうじの父④追おはむとて、倒ふれなむどしなば、きはめて不便ふびんなりぬべければ、かくのごとく、心のゆくかぎり打たるるなり」と⑤申しければ、世人、「⑥いみじき孝子なり」とて、世のおぼえ、ことのほかなり。聖徳太子、用明*4の杖つえの下にしたがはせ給ひけるを、⑦思おもひ入りたりけるにや。

⑧孔子、弟子に曾参そうしんといひけるは、父のいかりて打ちけるに、逃げずして打たれたりければ、孔子聞き給ひて、もし打ち殺されなば、⑨父の悪名をたてむこと、ゆゆしき不孝*5なり」といましめ給ひける。これも⑩ことわりなり。親の体*5によるべきにや。

そうじて、父母に仕ふまつるべき道、くはしく孝経*6に見えたり。かの文に二十二章を分け立てたる終つひの段をば、喪親章と名づけて、喪礼の儀式まで注しせり。これを見るべし。なかにも聖教*7には、

孝こ養父母、奉ほう事師長（父母に孝養し、師長に奉事す）

をもて、往生のもととせり。身体しんたいはつぷ髪膚を父母に受けたる生の始めなければ、恩徳の最高なること、⑪父母に過ぐべからず。

〔十訓抄〕

《注》

- *1 隨身ずいじん 貴族の護衛をする役人。
- *2 賭弓のりゆみ 朝廷で行われる弓射の儀式。
- *3 晴はにて 大勢の前で。
- *4 用明ようめい 用明天皇。聖徳太子は用明天皇の第二皇子にあたる。
- *5 体てい 状態。ありさま。

* 6 孝経・・・・・・・・・・孔子が曾参に対して孝について語った内容を問答形式でまとめた書物。
* 7 聖教・・・・・・・・・・仏教の経典。

問一 傍線部①⑩の現代語訳として適当なものを次の記号からそれぞれ一つ選びなさい。

①「わろく」

ア あまり上手でなく イ 全くおかしな方向に ウ わりと良い具合に エ 目にも止まらぬ速さで

⑩「ことわりなり」

ア 言語道断だ イ 不可思議だ ウ 道理である エ 愚かである

問二 傍線部②「打ち」・⑤「申し」・⑦「思ひ入り」の動作の主語として適当な人物を次の記号からそれぞれ一つ選びなさい。(選択肢は一度しか使えません。)

ア 武則 イ 公相 ウ 世人 エ 聖徳太子

問三 傍線部③「いかに逃げずして、かくは打たるるぞ」の現代語訳として最も適当なものを次の記号から一つ選びなさい。

ア どうやって逃げ出して、このように打たれているのか。
イ どうやって逃げ出して、自分の家族を打っているのか。
ウ どうして逃げ出さずに、このように打たれているのか。
エ どうして逃げ出さずに、自分の家族を打っているのか。

問四 傍線部④「追はむ」は歴史的仮名遣いで書かれている。これを現代仮名遣いに直し、漢字の部分も含めてすべてひらがなで書きなさい。

問五 傍線部⑥「いみじき孝子なり」とあるが、人々がこのように評価したのはなぜか。その理由として適当なものを次の記号から一つ選びなさい。

- ア 勘当されてもお父親のことを尊敬し続ける子の境遇をかわいそうに思ったから。
- イ 追いかけてきた父親が転んだため起こしてあげた子の優しさを賞賛したから。
- ウ 父親が弱り切っているのをいいことに打ち返した子の浅ましさを嫌悪したから。
- エ 年老いた父親がけがをしないように配慮した子のけなげさに感心したから。

問六 傍線部⑧「孔子」とあるが、この人物の教えを弟子たちがまとめた書物で、「学而時習^レ之。不^ニ亦説^一乎。（学びて時に之を習ふ。亦説^{またよつ}ばしからずや。）」という一節から始まる書物の名前を漢字二字で答えなさい。

問七 傍線部⑨「父の悪名」とあるが、どういうことか。その内容を二十字以内で説明しなさい。

問八 傍線部⑩「父母に過ぐべからず」とあるが、どういうことか。その解釈として適当なものを次の記号から一つ選びなさい。

- ア 父母に対して恩返しをしすぎてはいけないということ。
- イ 父母から受ける恩を超えるものは何一つないということ。
- ウ 父母から体のすべてを授かったと言っても過言ではないということ。
- エ 父母が子の命の始まりであるというのは誤りであるということ。

問九 本文の主題をわかりやすく言い表した語句を本文中から十一字で抜き出しなさい。

【四】 次の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ①大会なので友人とはいえ容赦なく戦いたい。
- ②仕事をする上ではひとまず前例に倣うのが無難だ。
- ③今朝の新聞が凶悪犯の脱獄について報じていた。
- ④有名人が不祥事を起こしたのを擁護する発言。
- ⑤強国から虐げられていた小国が反抗する。

【五】 次の——線部のカタカナの言葉を漢字に直しなさい。

- ①クワの葉を揚げて天ぷらにする。
- ②戦国時代のナンバン貿易について調べる。
- ③セキガンの狼がじっとこちらを見ている。
- ④先生のナグり書きの字は読みにくい。
- ⑤やっとつかんだ真実が闇にホウムられる。

【問題は以上です。】

